ロジスティクス研究会
ファックス通信
題字 浅井時郎東ト協名誉会長
インターネット・ホームページ
URL http//www.totokyo.or.jp/
e-mail：sounenbu@tta.ne.jp

ひびき

～安全と安心の共創～

(社)東京都トラック協会
編集人　大淵隆次
東京都新宿区四谷３丁目１番８号
ＴＥＬ.０３－３３５９－４１３７
ＦＡＸ.０３－３３５９－６０２０

２００７年１２月２８日発行　１２月号　No．１５５

※※

◇「思いおこすこと」

三代目本部長　鈴木　憲興〔㈱エスティーシステム〕

壮年部三代目本部長と言っても、大分前のことのように思いますが、本部長となることが決まって直ぐに、浅井東ト協会長に呼ばれ橋場先輩と車で伺いました。そこで浅井会長から本部長になることについて「おめでとう」と祝われたあと、「三組織を担当する副会長を受けてくれないか」と言われました。考える時間が欲しいところですが、会長の「即答してくれ」との言葉に、橋場先輩の「会長が仰っているのだから」との後押しで、お受けしました。齢５０歳の時、大変な重責を務めさせていただきました。

また､思い出すのは､政策提言をまとめるため、他のメンバーとあざみ野研修健康センターで缶詰になり、朝方、当時の渡邊教育研修部長と朝風呂に入ったところ、夜にボイラーを落とした湯船はすっかりぬるくなっており、寒くて出るに出られなくなってしまったことです。

現在、東ト協の環境委員長としてグリーン・エコプロジェクトを推進していますが、環境委員会でも、従来の規制に対応した環境対策から積極的な環境対策を推進するとのことで方向を転換する際に力強い支援をしていただいたのが、真下副委員長や三村副委員長、竹ノ内副委員長等壮年部の仲間達でした。このように壮年部時代の仲間と力を合わせて活動できることが私にとって大きな宝です。

◇わが町の「江東馬頭観世音」のご紹介

副本部長　鈴木　健之　〔城東支部　鈴直運送㈱〕

大正中期頃から東京市内の馬車運送業者が深川木場の材木運送に従事していた。江東区に大小の工場が進出してくるのに伴って馬車運送がにぎわいをみせ、馬市が立つ迄になった。

大正１２年の関東大震災で一夜にして東京は廃墟と化し、その復興に馬車運送業者は繁忙を極め、全国から馬車運送業者が集まり，当時、馬の数は３千数百頭といわれ、朝夕の馬車往来のため人々の通行も妨げられるほどであった。

その後、次第に戦争が拡大され、数多くの馬は徴発され軍馬として戦場に向かった、ほとんどが戦死を遂げた。

昭和２０年３月１０日　東京大空襲により多くの馬も焼死した。

昭和２８年７月に各所に散在埋葬されていた馬の遺骨を江東区南砂１丁目の現在地に合同埋葬をし、同年９月に有志が江東馬頭観世音を建立。

現在も毎年３月１０日に東京トラック同盟協同組合が中心となり、武州上岡（東松山市）妙安禅寺・上岡馬頭観世音住職を招き、慰霊祭を行っている。　　東京トラック同盟協同組合５０周年記念誌より

《百文字のひろば》

荒川支部　斉藤　彰悟　〔エスエイロジテム㈱〕

東京ビックサイト「２００７・東京トラックショー」に出展されていた、運転の危険回避の先進的なシステムに、大いに興味を覚えました。ヒューマンエラーを防止し、より安全な輸送を行う、正に夢物語の実現する時代を迎えようとしていますね。

◇特集「バンコク視察報告」Ⅱ

「素晴らしい仲間」本部長 竹内 政司〔多摩支部 竹内運輸工業（株）〕

「温故創新セミナーで取上げたい人物や、訪ねたい場所はありますかーーー」。企画委員長であるエスエイロジテム（株）の斉藤彰悟社長から議案が上程されたのは総会が終了し、新年度事業計画の実行をつめる正副本部長会議の席だった。今年は「海外研修の年」。またロジ研の前身である東ト協青年部 OB 物流研究会議設立総会から数えて２０回目の総会を終えた年でもあり、「記念になる事業はできないかな」と思っていた私の口から何気なく出た言葉は、「温故創新セミナーと海外研修、この二つの企画をあわせて同時に実行できない？」という投げかけだった。

それぞれの企画は単独でやっても、その準備にはかなりの手間と時間が掛かるもの。ましてや海外研修とあわせ、さらに「記念になる事業」となると、その実現はかなりハードルが高いと思われた。しかし私の投げかけに斉藤委員長はじめ各委員会担当の副本部長メンバーが素早く反応してくれた。流れは同時開催の方向となったが、企画が企画だけに歴史上の様々な人物と場所の名前があがっては消えて行く。そんな中、山田長政の足跡を訪ねさらにアユタヤ王朝の栄枯盛衰を勉強してはどうか、との意見が出された。

後日、教育研修部の斉藤次長にタイの情報収集を頼んだところ、外務省のホームページから今年が「日タイ修好１２０周年」の年に当たることがわかった。企画の内容にもよるが、タイの人達との交流を外務省が国際交流事業としてオフィシャル認定してくれるという。早速、温故創新セミナーを軸に現地物流施設の研修・見学、タイのトラック協会ならびに物流事業者との交流会を企画し申請したところ、認定（認定番号１７９番）を受けることができた。当初はハードルが高いと思われていた二事業同時開催に加え、外務省認定である「日・タイ国際交流事業」までもを１１月２１日から２５日までの日程で完璧にこなしてしまったのである。それも２１名の仲間が集ってである。

「外務省からオフィシャル認定をもらっての海外視察研修は東ト協では初めてかも？」（協会関係者）との話もあるように、タイトラック協会 Buneian Srisaensuchat 会長までもがわざわざ交流会に出席して下さり、私たちメンバーは東ト協の名のもと、国際交流にも一役買うことができ、ロジ研の記念事業に相応しい研修ができたと考える。

こうして文字で書くと企画のスタートから終了まで、わずか数十行の記事ではあるが、実現のために実務を担当した教育研修部・斉藤康次長、副団長の斉藤彰悟企画委員長、研修の篠崎眞副委員長（㈱興真運送）には本当に苦労をお掛けした。星野会長をはじめ親会である東ト協の全面的ご支援、タイトラック協会はじめ現地企業の皆様、送り出しにご尽力いただいた皆様、本当に沢山の方々に助けられた。この企画にかかわって下さった全ての人たちに心から感謝を申し上げるとともに、何よりもこの企画を盛り上げ、行動を共にしてくれた仲間に「ありがとう」の言葉を贈りたい。皆さん、本当にありがとうございました。

「タイ・バージ・コンテナサービスを訪問してみて」（海外企業視察）

研修委員　宮本　隆　〔多摩支部　宮本運送㈱〕

どこの国でも、物流事業者は、輸送品質向上とコスト削減が重視されているのだと感じました。

訪問先での質問、回答の一部を記します。

Ｑ．トラクタを見てビックリ。日本に無い形式のトラクタばかり。
　キャブは全メーカー日本の４ｔキャブ、シャシーは重トレ 10 輪車？
Ａ.タイ、いすゞで生産されるトラクタはほとんどが４ｔキャブ､10 輪車。ちなみに、エンジンも馬力出力の小さいものが搭載され、すべてコスト面によるものだそうです。
　※ 日本の運送会社で使用したら、社員からブーイングが出そうなトラクタです!!
Ｑ．古い車輌が多く走行していますが故障等ないのですか？
Ａ．運転手がけっこう器用なので、ある程度は直してしまうとのこと。
　※ うらやましい運転手が多く日本に来て乗務して下さい!!
Ｑ．運賃はいかがですか？また客先に日系企業が多いので独占的運賃では？
Ａ．運賃は日本の約 1/4 程。人件費が安いので何とか採算ベースですが、同業他社との競合もあり楽ではありません。
　※ それでも賃金は、公務員より運転手の方が多いそうです!!
Ｑ．運転手は集まりますか？
Ａ．集まりますが、質の問題はあります。※ 何処も同じ問題かも!!
Ｑ．事故はありますか？
Ａ．国全体に安全に対する意識が低く、交通マナー悪く、そこそこの事故はあります。※ 死亡事故で 150 万円位だそうです!!
　※　汚職も上から下まで蔓延しているそうです？

最後に、タイ国の古い車輌で運行している姿を見て、今の日本のトラックの様に、いたれりつくせりで走る止まるが当たり前で走るから、トラック・トレーラーに定量積載でも横転、追突等事故多発で、20 年前のバタクレは、積んだら発進しない、走らない、止まらないが当たり前で運転手はある意味覚悟して乗務していたから今ほど大事故も無かった様に感じるが・・・？

今回の訪問であらためて、会社経営・社員教育とは、考えさせてくれる良い研修だったと思いました。

皆様も時間をつくって一度タイ国に視察に行ってみては!!

※温故創新報告は次号掲載予定です。

【本年はお読みいただきありがとうございました。また、ご寄稿並びに執筆にご協力いただきました皆様ありがとうございました。皆様の新年のご多幸をお祈り申し上げます。】

◇お知らせ *《行事予定》*

- ◇正副本部長会議　 1 月 17 日(木)17:00～ 於：東ト総合会館６中
- ◇三組織合同ｾﾐﾅｰ・新年会２月７日（木）
- ◇ロジ研フォーラム　 3 月 4 日(火)12:00～ 東ト総合会館
- ◇ロジ研親睦ゴルフ　 3 月 15 日(日)